

農林水産大臣賞

農事組合法人すごいええのう^{あゆかわ}鮎河（滋賀県甲賀市）



若手中心のオペレーター



鮎河菜（あいがな）

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

昭和50年代半ば以降、高齢化による担い手不足や農地の荒廃、獣害による耕作意欲の減退等の問題が深刻な状況となってきた。このため、ほ場整備事業が完了したことを契機に東野地区と西野地区に2つの耕作組合が結成され集落営農が始められた。

その後、平成17年に効率的で安定した集落営農を展開するため、「鮎河耕作組合」に一本化され、同年11月には特定農業団体へと発展した。

さらに、将来を見据えて安定的で継続的な組織体制を確立・維持するために、若い農業者を主役とする組織に運営が引き継がれ、その中での議論の結果、平成19年3月に農事組合法人すごいええのう鮎河が設立された。

（２）むらづくりの内容

- ・「郷土愛」をメインテーマとし、集落が一丸となって農業生産とむらづくり活動に取り組む。
- ・若い世代を役員に登用し、20年先、30年先の将来を見据えた農業・組織体制の確立を目指し、耕作放棄地を出さない取組を行う。
- ・清らかさ、安全・安心を前面に「鮎河ブランド」の構築に努め、経営の複合化を目的に新規品目として伝統野菜「鮎河菜」の生産や「食育畑」の活動にも取り組む。
- ・地元の造り酒屋との連携による清酒造りや「鮎河菜」を使った新たな加工品開発に取り組む、6次産業化による経営発展を図る。
- ・ボランティアの田植え体験等の活動を通じた消費者との交流活動や農家民宿等による都市農村交流活動を積極的に行う。
- ・学校給食向けの農産物を生産する「食育畑」による食育活動や、JA農産物直売所に「鮎河米」、「鮎河菜」を出荷するなど地産地消にも積極的に取り組む。